

東部 NN 通信

= 第 60 号 =
令和7年3月28日発行

About—

「東部NN通信」は、石巻地域の農業農村整備事業に関連する活動等を広くお知らせすることを目的に、年3回発行しています。

掲載希望の情報等がありましたら当部農村振興班までご一報ください。

今後ともよろしくお願いいたします。

Contents—

- 「震災復興事業の完了と農地整備の展望」…………… 1
「奥松島果樹生産組合」ディスカバー農山漁村の宝アワードに選定、田んぼダムパネル展の開催…………… 2
石巻圏域の農業用排水施設の紹介（第3弾）、希望の大麦プロジェクトについて…………… 3
北上小学校収穫祭の開催、農業用ため池での事故防止について…………… 4

▶ お知らせ ◀



当部の事業概要を収めた「石巻圏域の農業農村整備2023-2024」を発行しました。紙媒体の配布、[当部HP](#)で公開を行っています。

巻頭記事

「震災復興関連事業の完了と農地整備の展望」



▲目入れ後のダルマ

写真の執務室内にあるダルマは、東日本大震災で被災した農地の復旧が無事に完了することを祈願し、左目を入れたものです。それ以来、震災復興に向け懸命に努力する職員を長年にわたり見守ってきました。そして今回、災害復旧事業および災害関連の復興事業が完了したことを受け、右目の目入れを行いました。これまで震災の復旧・復興に尽力していただいたすべての関係機関に、改めて深く感謝申し上げます。

震災復興事業は終了しましたが、当管内では内陸部の農地整備が十分に進んでいない状況にあります。そのため、今後は農地整備事業の推進により、農地の利用集積を進め、経営の大規模化や多角化を促進することで、農業経営の安定化や競争力のある経営体の育成を図っていきます。

東日本大震災から今年の3月11日で14年が経過しました。震災に関連する災害復旧事業および災害関連の復興事業は、令和5年度に工事を終え、今年度、大川地区の換地に関する登記が完了したことにより、事業の終了を迎えました。

現在、被災した地区では、ほ場整備を契機として、農事組合法人や株式会社等の設立が進み、大区画化・汎用化されたほ場で農地の集積・集約化が進められています。また、GNSS基地局の整備や自動操舵トラクターなどのスマート農業の導入により、作業の省力化が図られ、地域農業の将来像を見据えた地域計画の実現に向けた取り組みが進められています。



農村振興課作成 農業用ため池における水難事故防止用啓発動画

「【ため池事故防止】まもろうね！ためいけルール」

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosonshin/tameike-rule.html>



奥松島果樹生産組合がディスカバー農山漁村の宝アワードに選定されました!



▲受賞者集合写真(右から2番目尾形組合長)

農林水産省が主催するディスカバー農産漁村の宝AWARD第11回選定にて、東松島市宮戸地区の「奥松島果樹生産組合いちじくの里」が地域活動による活性化の取組等を評価され、東北農政局のコミュニティ・地産地消部門に選定されました。

「奥松島果樹生産組合いちじくの里」は海苔養殖等を行う漁業者が組合員となり、東日本大震災から復旧した農地を活用して桃やイチジク、柿等を栽培、加工販売しています。収穫期には、宮城県松島少年自然の家と連携し、地元の幼稚園児や小学生を対象とした桃狩り体験や県内の農業高校の見学の受け入れを行っており、地域農業への関心の向上に貢献しています。

令和7年1月28日火曜日には、仙台合同庁舎で選定証授与式が行われ、奥松島果樹生産組合の尾形組合長が出席しました。

田んぼダムパネル展を開催しました



▲パネル展示の様子(石巻市役所本庁舎)

令和6年12月20日金曜日から令和7年2月17日月曜日までの期間、石巻合同庁舎、石巻市役所本庁舎、道の駅上品の郷で「田んぼダム」パネル展示を行いました。

展示では、田んぼダムの仕組みや設置方法、その効果について、写真や図解を用いて紹介し、排水マスの模型や実験動画も放映しました。

来場者へのアンケートでは、「田んぼダム」を知らなかった方と関心がある方が半数以上いるという結果となりました。

当部では、今後も「田んぼダム」の普及に向け、パネル展示を開催する予定としております。詳細な場所や日時等が決まり次第、当部ホームページで公開しますので是非ご覧ください。



農村振興課作成 実験動画「仕組み丸わかり! 模型で実験
『田んぼダム～普段は田んぼ, 時々ダム～』

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosonshin/tanbodamu-jikken.html>



石巻圏域の農業用排水施設を紹介（第3弾）



▲ 浅井排水機場

農業用排水施設には、用水路、排水路、頭首工、揚水機場、排水機場、ため池、ダムなど多種にわたり、農業生産だけでなく、洪水防止や景観形成などの多面的機能も有しています。

そのため、施設を紹介することで、非農家が管理に参画する管理体制の在り方について考えていただければと思い、施設の成り立ちなどを紹介しています。

第3弾では、吉田川右岸にある「浅井排水機場」を紹介します。

「浅井排水機場」は、昭和61年度に採択された水田営農活性化排水対策特別事業浅井地区により、平成5年に造成された施設です。

本地区では従来、自然・機械併用排水を採用しており、自然排水は、吉田川の水位の影響を受けるため、排水能力が十分ではなく、機械排水についても排水能力が小さいうえ老朽化により効率が低下し、たびたび湛水により甚大な被害を受けていました。

そこで本事業により、浅井排水機場を新設するとともに、用排水路として使用されていた、浅井排水路を排水専用とするため幹線用水路を新設し、湛水被害の防止を図りました。

Topics

「希望の大麦プロジェクト」について



▲希望の大麦収穫祭の様子



▲希望の大麦を使用した地ビール

東松島市のほ場整備完了地区では、現在、一般法人東松島市みらいとし機構（HOPE）が主導する「希望の大麦プロジェクト」により、二条大麦が栽培されています。

このプロジェクトは、アサヒグループホールディングスの協力の下、津波で被災した土地の有効活用策として、市内農業生産法人と協働して二条大麦の生産を行い、「希望の大麦」を原料とした商品の企画開発などを進め、地域に「なりわい」と「にぎわい」を生み出す取り組みです。

大麦は「株式会社めぐいと」、「株式会社ぱるファーム大曲」により、ほ場整備地区を中心としたエリアで栽培され、毎年60トンほど収穫されています。

2022年2月には、ニッカウキスキー宮城峡蒸留所でウイスキーの原酒製造がスタートし、2027年の完成を目指しており、東松島市の新たな特産品として注目されています。

石巻市立北上小学校で収穫祭が開催されました



令和7年1月23日、石巻市立北上小学校で、1年間の農業体験学習を振り返り、関係者への感謝の意を込めた収穫祭が行われました。

収穫祭では、9月に収穫した「みやこがねもち」を使用し、3年生の児童が杵と臼を使ってついたお餅をふるまうとともに、ソーラン節や和太鼓演奏等の出し物も披露されました。

餅つき体験では、児童たちが思い切り杵を持ち上げ上手に餅をついていき、つきたてのお餅を試食した児童からは「甘くておいしい!」といった感想が飛び交いました。

最後には、児童たちが関係者へお餅を配り、全員で美味しくお餅を堪能しました。

石巻市立北上小学校では、一年間を通じて田植え体験、生き物調査、施設見学会、稲刈り体験等の様々な活動を行っており、農業・農村について関心と理解を深める活動が行われています。



▲ 和太鼓を演奏する児童



▲ お餅を観察する児童

! 農業用水利施設での事故防止について



◀▲「ため池事故
防止リーフレット」
(宮城県農政部作成)

QRコードから
閲覧できます。

4月から5月にかけて、かんがい期が始まることで農業用ため池の水位や水路の流量・流速が早くなり大変危険な場所になります。

ため池や水路での水難事故は全国的に多発しており、一度転落すると自力で脱出することは困難です。そのため、保護者やご家族、地域住民同士で注意喚起を行い、立入を禁止する看板やフェンスがある場所など危険と思われる場所には近づかないようにしましょう。



宮城県東部地方振興事務所 農業農村整備部 (編集: 農村振興班)

〒986-0850 石巻市あゆみ野五丁目7番地

(宮城県石巻合同庁舎4階)

Tel 0225(95)1411 (内) 2631

Fax 0225(96)4880

E-mail et-ss-nos@pref.miyagi.lg.jp

URL <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-ns/>



▲ 部HP